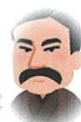
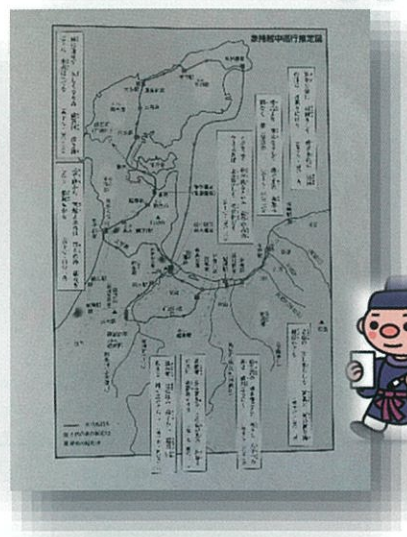


第1回

おてらくご



日時 令和7年10月11日(土曜日) 開場 12時30分 開演 13時
開場 国宝 雲龍山 勝興寺 本堂

2017年10月七代目 笑福亭 松喬 と襲名、上方落語家として現在も精力的に活躍の場を広げる師匠をお迎えして開催いたします。 演目は浄土真宗ゆかりの『お文さん』と他、地元伏木地区の魅力を掘り起こし、何時しかの賑わいを取り戻すために盛り沢山のネタを持って演じます。
さあ～お楽しみです

予約 ふしぎな伏木まかふしぎな会 代表 田 祐久 伏木東一宮

受付期間 : 令和7年8月10日～令和7年9月30日迄 下記メールでお願いします。

電話 (ショートメールでお願いします) 090-9974-0345

eメール fusiginafusiki795@gmail.com

申し込みの際は、①お名前 ②町名 ③お席の区別 ④枚数 を記入の上申し込みください。
駐車場等のご案内は後日メール等でご案内させていただきます。

※ 事務局にて予約登録処理後に受付番号をご連絡(返信)いたします。当会からの連絡が取れた時点で予約完了となります。(知りえた情報は次回のご連絡のみ使用することがあります。他の使用は一切ありません。)

木戸銭 座布団席: 2500円 腰掛席: 3000円 (なるべくご年配・あしの都合のあるお方)
中学生・高校生 (座布団席): 1000円

当日受付番号をお持ちの上、会場受付にて代金をお支払いください。

木戸銭には国宝勝興寺への協力金が含まれています。

講演終了後、短い時間ではありますが「比奈の会」様のご厚意により勝興寺の説明会(ご案内)が聞けます。お時間のある方は是非ご参加いただければ幸いです。

共催

高岡市教育委員会

笑福亭松喬

芸 名 / 笑福亭松喬 (しょうふくて しょきょう)

本 名 / 井田 達夫 (いだ たつお)

生年月日 / 1961 年 (昭和 36) 年 3 月 4 日

出 身 地 / 兵庫県西宮市

血 液 型 / A 型

入門年月日 / 1983 年 (昭和 58 年) 4 月「六代目松喬(しょきょう)」

昭和 58 年「笑三」で初舞台、昭和 61 年から「三喬」

平成 29 年 七代目松喬 (しょきょう) を襲名

受賞歴 /

平成 17 年 文化庁芸術祭・優秀賞、

平成 19 年 第 1 回 繁昌亭大賞、

平成 29 年 大阪文化祭賞

平成 30 年 西宮市民文化賞

令和 3 年 文化庁芸術祭・大賞

現在 / 公益社団法人 上方落語協会理事 (平成 26 年就任)

【ひと言】

盗人 (ぬすっと) 癖が大好きです。社会では許されない「盗み」も、芸の世界ではやりたい放題。師匠の芸を盗み、先人達の息を盗み、最後にお客様の心を盗みます。



～主な出演落語会～

「松喬三昧」(大阪)

「笑福亭松喬独演会」(東京)

「笑福亭松喬独演会」兵庫県立芸術文化センター (西宮)

趣 味 / ハードロック鑑賞・喫茶店の会話 (自身の珈琲を発売する程のツウ)

特 技 / 寄席の獅子舞

学 歴 / 兵庫県立西宮高校～大阪産業大学工学部・交通機械工学科卒



落語「お文さん」について

釈 徹宗 (武蔵野大学総長・相愛学園学園長)

このたび、地域の誇りである勝興寺さまの本堂で落語会が開かれる縁となりましたこと、心よりお慶び申し上げます。

しかも、第一回は七代目松喬師匠による「お文さん」が披露される予定とうかがっております。素晴らしい企画だと思います。

そもそも私はこの「お文さん」というネタで、先代(六代目)の松喬師匠と親しくさせていただくことになりました。「お文さん」は船場の浄土真宗文化が色濃く反映されている独特の噺なので、その奥行きを表現するような工夫ができないものかと以前から考えていたのです。そして、その役目を先代・松喬師匠にお願いしました。

「お文さん」がもっている特性を生かすために、細かなところをリライトして先代・松喬師匠に見てもらいました。実は、私は終盤のストーリーを変えることを提案しました。正妻さんとお婆さんとの部分で、現代人にとってコミットしにくいのではないかと感じていたからです。また、もう少しすっきりしたサゲもあり得るのではないかとも思っていました。しかし、先代・松喬師匠はこの提案をガンとして受けつけてませんでした。「古典を変えてはいかんです。そのかわり、マクラを工夫してください」と教えられました。

約一年かけて完成した後、築地本願寺の本堂で大々的にお披露目となりました。この様子は拙著『おてらくご』(本願寺出版社)の付属CDで聴くことができます。そしてこのネタは今、当代の松喬師匠によって見事に受け継がれ、さらに妙味のあるネタとなっています。

今回、松喬師匠が勝興寺さまの落語会で「お文さん」をかけてくださることは、私にとっても大きな喜びです。松喬師匠は今、上方落語の柱となっている噺家さんです。実に魅力的な高座を展開されます。当日は「これぞ笑福亭」というテイストあふれる語りをお楽しみください。